

第7回 情報システム学会 全国大会・研究発表大会 開催報告
実行委員長 金田 重郎 (同志社大学)

第7回全国大会・研究発表大会が、2011年11月26日(土)～27日(日)に、同志社大学新町キャンパス(京都市内)にて、「日本社会は前進できるかーそのとき情報システムの役割は？」というテーマで開催されました。39件の研究発表があり、大会参加者は104名(開催校学生17名を含む)でした。研究発表件数は、地方開催のためか、前回に比して、多少減少しましたが、参加者数は昨年とほぼ同様となっております。

今年は、特別講演を合計3名の講師の方をお願いをして、充実させました。26日(土)の最初のご講演は、三菱電機(株)先端技術総合研究所・システム技術部門の泉井良夫様に、「三菱電機のスマートグリッドへの取り組み」と題してご講演を頂きました。内外の注目が集まっているスマートグリッドですが、三菱電機が巨額な研究費を投入して進めている実証実験の概要についてご報告がありました。次に、同志社大学大学院ビジネス研究科教授の浜矩子は、TVの政治番組等でおなじみの語り口で、「これからどうなる、グローバル経済と日本」と題して、講演をいたしました。日本経済の3つの話題、財政恐慌、超円高、そして「ドンダリの背比べ」について講演を行いました。翌日27日(日)には、同志社大学大学院総合政策科学研究科教授である山口 栄一が、「見逃されている原発事故の本質」と題して、講演を行いました。山口はJR西日本尼崎駅付近での事故に関して、発言を続けている教員ですが、福島原発事故についても、企業内に技術の分かる幹部が存在することの必要性を強調いたしました。なお、これら講演については、後日、学会からその概要をご報告する予定です。

懇親会は土曜の夕方に、会場にほど近い、同志社大学・寒梅館のフランスレストランにて行われました。今年から、学会からの会費援助をやめて、独立会計としました。結果的に、参加費は従前より高くなりましたが、それにもかかわらず、昨年を上回る60名もの参加者を得て、大変盛り上がった交流の場となりました。

関西地区で大会を開催することは、今回が初めての試みでした。特に、1)開催時期が京都の紅葉の最盛期と完全に重なり、ホテルが全く取れないという事態が生じたこと。また、関西地区での開催のため、東京地区からの参加者数の減少が危惧されたこと、2)懇親会費の値上げによって参加者が減少すること、を危惧しました。しかし、結果的には、多くの貴重なご研究について、昨年に準じた数の発表の場を提供できました。また、懇親会も(わずかですが)黒字を出すことができました。これらは、ひとえに、大会参加者の皆様の、「情報システム」に関する、「熱き思い」のたまものと存じます。大会実行委員会メンバー一同、大変、喜びに感じるところでございます。

関西地区では初めての開催であり、運営等で至らないところが多々あったと存じます。次回以降の全国大会・研究発表大会をより充実したものにするため、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。